



年 組 名前

道新でワークシート

卓上四季

平安時代の三十六歌仙の一人、平兼盛に、百人一首にも選ばれた有名な歌がある。「忍ぶれど色に出でにけりわが恋は物や思ふと人の問ふまで」▼隠していたが、どう

とう顔に出してしまったよ、私の恋心は。思っているのですかと、尋ねられるほどに。気持ちを抑えきれないのは、いつの時代も変わらないようだ。それが恋心でなくとも▼「お子さん、お孫さんには子どもを最低3人くらい産むようにお願いしてもらいたい」。自民党の桜田義孝・前五輪相が、国会議員のパーティーでこう述べ、批判を浴びている▼自民党は先月、失言防止マニュアルを配布した。歴史認識やLGBTなどについては特に気をつけるように、との内容だ。それでも失言が止まらないのは、これが本人の持論だからか。本音は隠しきれないだろう▼桜田氏は自らの失言で五輪相を辞任したばかり。そもそも結婚や出産は各自が決めることだし、何よりも少子化は、子育ての環境が十分に整備されていないことも一因だ。それを何とかするのが国会議員の仕事だとの認識は、どうやらこのご仁はお持ちでないらしい▼桜田氏だけに限らない。議員の失言や暴言、妄言は後を絶たない。いま必要なのはマニュアルより、言っていないことと悪いことの分別を身につけることではないか。それをしなければ、どれだけうわべを取り繕っても、本音はいつか「色に出る」。 2019.6.5

2019年06月05日(水) 朝刊 全道遅版 総合1面

①文中で紹介されている短歌と同じように、隠しきれない恋心を読んだ短歌を次のア～エからひとつ選び記号で答えなさい。

- ア 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山
 イ ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは
 ウ 君がため 春の野にいでて 若菜摘む わが衣手に 雪は降りつつ
 エ 玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば 忍ぶることの 弱りもぞする

②この文章の特徴として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 疑問を提示して答えを述べるという形を繰り返しながら、話題を展開している。
 イ 和歌に関連づけて自分の意見を述べ、その和歌の言葉を用いて話を結んでいる。
 ウ 前半で自分の主張を述べ、後半でその根拠となる事実について説明している。
 エ 論理の展開にはこだわらず、思いついたことを順番に並べて話を進めている。